

学校評価

IVY大分高度コンピュータ専門学校

《令和3年度 学校関係者評価》

まとめ

項目	自己評価	適/不適	評価	評価に係る提言・今後の改善等
(1)教育理念・目標	3.9	適切	・学校全体の教育理念・目的を学校内・地域社会にも明確に示している。対外的周知も良い。 ・大変良いと思う。 ・理念・目標として、学生の専門知識・技術の習得、希望する就職の実現までを含んだ総合的な目標を掲げているところが評価できる。 ・コロナ禍でも理念・目標にブレがないと感じる。 ・開校以来の目標を一貫して継続できていると感じる。特に生徒の意向を引き出すための度量の広い校風は理念と合致している。	・コロナ禍での教育対応をさらにすすめてほしい。 ・カリキュラムとして十分な目標が掲げられているが、その目標を設定した理念、例えば地域産業における卒業生の期待や未来像を示すと、具体性がまずと考える。 ・新型コロナ禍でのIT分野の普及や進歩が著しい中、社会(企業)から求められる教育像の変化に対して、教育理念の再点検が必要かもしれない。
(2)学校運営	4.0	適切	・適切に運営されている。 ・伝統を重んじた学校組織を基礎に、学校運営のための規則や規定の整備を通じて、効果的な学校運営を展開しているところは評価できる。また、学内外での研究会、人材育成を通じて、教職員のスキルアップをはかっているところも評価できる。 ・大変良いと思う。 ・コロナ禍でも適切な運営を行っていると思う。また、そんな中でも新たな取り組みや試みに感心した。 ・時代のニーズ探りながら、新しい取り組みや外部との連携を積極的に試み、常に変わり続ける柔軟性を感じる。	・業務の効率化をさらに進めてほしい。 ・感染症対策は、大きな課題として学校運営にも大きく影響したと考えるが、具体的に全学的にどのような運営形態で対応したのかが不明である。 ・社会の変化も含めてスピードが早いだけに、「変わらない学校運営の軸」を常に点検することで組織の一体感も深まると思う。

(3)教育活動	3.5	適切	・教育理念に沿った教育課程の実施、カリキュラム教育の実施、資格取得の努力、授業評価などがなされている。 ・新たな学科がスタートし、新たな科目が導入されるようになった。資格取得、就職に向けてのカリキュラムの体系化は、外部関係者との連携、学生アンケート、試験対策を通じて充実されており評価できる。リモート授業への試みも評価できる。 ・大変良いと思う。 ・時代のニーズに先駆けてカリキュラムの編成など適切に実施していると思う。資格取得率は学校の外的評価にも繋がるため、そこに拘ることに対して一定の理解はするが、資格制度そのものが現場力とマッチしていないことが多い。その理由として、資格を取得することを目的に資格の取得にチャレンジする人が多いからだと感じている。 ・資格取得を中心とした体系化されたカリキュラムは、安定した就職率という成果を生み出す大きな要因だと感じる。また各講師の授業への裁量が大きいため、創意工夫を凝らした内容で取り組むことができている。	・教員に対する先進的な知識・技術の研修の機会をさらに設けてほしい。 ・感染症対策としての対面授業とリモート授業への切替に留めず、学習効率という観点からもリモート授業を考えても良い。それに伴う学習環境の構築も必要であろう。また、学科が細分化された影響で、学科の専門性が狭まったと感じる。社会の多様な要請に対応する人材を育成すべく、幅広いカリキュラム構成も一考の余地がある。 ・資格はあくまでも自分の力量を図るための基準であり、目的ではないということを生徒に浸透させて欲しい。 ・実践的で専門的な職業教育は、今後更に重要になると思うが、急激に変化する社会や企業ニーズを今まで以上に把握する必要性があると思う。
(4)学修成果	3.9	適切	・就職・資格取得に力を入れその成果をあげている。 ・社会ニーズ、学生の希望に応じた資格取得指導、特別講演の開催、多様な面接指導、マナー指導、担当職員の配置により良好な学修成果を挙げている。 ・例年通り、素晴らしい生徒に育成していると感じている。地元企業に積極的に就職していることもその成果だと考える。 ・新型コロナウイルス禍の社会変化に対応するために、生徒の特性が生きる就職を教職員全体で熱心に取り組んでいるように感じる。	・卒業後の活動の把握にさらに努力してほしい。 ・本評価は貴学の最も重要な部分で特筆されるべきところである。引き続き充実した取り組みを期待する。 ・卒業後のキャリア形成に関する教育も今後は必要になると思われる。

(5) 学生支援	3.9	適切	・進路・就職に対する支援体制、学生の経済面・健康面の支援体制が十分なされている。 ・スクールカウンセラーを任用し、他に類を見ない取り組みが行われており充実している。保護者からの要望も聞き入れ、学生の様々な学修・生活環境に対応している。感染症による学生の生活環境の大きな変化があり、当校不可能な学生についてはオンライン環境での講義の実施も適時行なった。 ・大変良いと思う。 ・就職に至るまでの支援が十分になされていると感じる。 ・多様化した生徒を受け入れる環境を整備し続けていると思う。	・学生の生活環境・卒業後の支援などへも関与してほしい。 ・若年層のもスマートフォンが普及し、メッセージ対話は慣れているものの、一方で毎日学校に通うこと、対面のコミュニケーションが苦手な学生が急増している。このような若年層の資質の変容は教育現場でも大きな問題となる。学生に合わせるばかりの現場では既に限界にあるのではなかろうか、学生が自立する方策も併せて取り組むべきである。 ・学生自身が客観的に自分の特性を確認できる取り組みがあると進路の選択も行い易いのではないかと思う。
(6) 教育環境	3.6	適切	・施設・設備が十分整備されている。 ・修学環境は素晴らしく、さらに整備を精力的に取り組んでいるのは評価できる。 ・大変良いと思う。 ・設備・環境面で十分に配慮されていると思う。 ・既存の教育設備は十分に充実していると思うが、リモートでの教育環境と運営ノウハウ構築が急務と感じる。	・学校内外の研修にも引き続き力を入れてほしい。 ・いつでも修学できるように教材のオンライン環境の構築が望まれる。 ・ICT機器を活用したりリモート授業が義務教育の現場でも急速に進んでいる。環境と体制(ノウハウの構築)の整備が必要と思われる。
(7) 学生の受入れ募集	3.7	適切	・学生募集に力を入れている。広報も十分である。 ・体験入学やオープンキャンパスを開催し、全体説明や生徒への個別面談を通じて特色及び学習内容と就職先状況を丁寧に説明して、学生の進路希望とのミスマッチをなくす取り組みは評価できる。 ・大変良いと思う。 ・広報の一環としてホームページの活用があると思う。高校生が進路を決定する上でホームページの閲覧がきっかけになることも多いと思うが、ホームページにワクワク感が不足している感じる。 ・積極的に早い時期からの定期的な体験入学やオープンキャンパスは入学希望者とのミスマッチを減らしていると思う。	・学外の他の組織との連携や共同活動による地域社会への広報にも力を入れてほしい。 ・大分は学習環境として適した地域である。特に生活のし易さは特筆される。衣食住を考慮した全国規模の受入体制の検討をすべきである。 ・ワクワクするホームページに一新するのはどうだろうか。 ・Webを中心とした情報発信の充実は、更に必要になると思う。人員の充実や運用の体制づくりも重要だと思う。

(8)財務	4.0	適切	・適正に行われている。 ・適切な財務管理の中、効率的な学校運営が行われている。 ・適切に行われている。	・安定した財務を維持し、教育を通じて未来ある学生の社会進出の支援を継続させて頂きたい。
(9)法令等の遵守	4.0	適切	・適正に行われている。 ・学外からの評価も行われ、特に問題なく実施されている。 ・適切に行われている。	・法令遵守エビデンスの蓄積は、社会要請として求められたときに重要ではあるものの、現場教員の負担にならないようシステム化して対応することが望まれる。
(10)社会貢献・地域貢献	4.0	適切	・十分に行われている。 ・高校への出前講義、県下企業で構成される情報サービス産業教会への参加など様々な取り組みがなされており評価できる。 ・十分行われている。 ・公開特別講演を再開できたことはとても意義があった。	・さらに幅広い地域貢献・社会貢献に力を入れてほしい。 ・ネットワーク上の交流を主体にする学生も少なくない。地域への社会貢献もネットワークの交流を介して実施するのも興味深い。 ・独自の取り組みが増えることで学校の存在がひときわ際立つと感じる。他の項目の活動でも取り組まれることを期待する。
(11)国際交流	— —	— —	— —	・国際交流については自己点検の中になく、今後の対応に期待したい。

<平均> 3.9